



には誰にどのような内容で取材を行うのが良いか考え、デザイナーでなくても、誌面のレイアウトの細部について率直な意見やアイデアを交し合うという風に。デザイナーを志す学生に読んでもらうためにデザインに気を遣い、ライターを目指す学生にも手に取り読んでもらうために文章にも配慮するそう。

多くの人に読んで頂けるよう努力し、編集委員のメンバーが了承したクオリティーでしか発行しないにも関わらず、「『PARTNER』が特別デザイン性が高いわけではないと思いますし、色々な学生団体が発行しておられるフリーペーパーでデザイン性の高いものは沢山あると思います。」と話す編集委員の学生たち。

彼らのミーティングでは、記事の編集だけでなく、お互いの大学に居る面白い学生や観に行った展覧会や美術大学の学園祭、イベント、今流行りの注目したいツール等の情報交換が活発に行われていた。恐らく普段から、何をどのように伝えれば全国の美大生の制作活動に生かしてもらえるかを念頭に置

き、生活しているのだろう。しかし、真剣なだけに、編集時には喧嘩をしたりストレスが溜まり過ぎて参ってしまうこともあるという。

全国に配布されることの意味

第20号発行後、改めて阿部さんに尋ねてみた。

— 今回は「空間演出」というテーマですが、既に表紙に空間を感じますね。今回も、内容とデザインがフィットする冊子になるよう、相当な努力をされたのでしょうか。阿部さんはどの誌面を担当されたのですか？

阿部 そうですね。今回は、映画やCMの美術監督をされている中村桃子さんの企画の誌面を担当させて頂きました。誌面デザイナーは複数居たのですが、それぞれのデザインを見て、一番中村さんの空気感を出せるデザインをみんなで選びました。毎号そうなのですが、1冊の中で、この企画のデザイ

ンを他の記事に合わせ読み易いようにすることには、やはり時間をかけましたし、細部まで気を遣いましたね。

— 毎号大変なことがあっても、記事発行を継続し、クオリティーを維持できるモチベーションは何に由来していると思いますか？

阿部 ひとえに、読者から頂く反応ですね。「あ！『PARTNER』だ！」と手に取って頂く時ほど報われる瞬間はありません。また、全国で配布していることもあり、全く知らない方に SNS 等で感想を頂けると、想像を超えた範囲まで媒体が読者の心に届いているのだと感じて、嬉しいのと同時に「次はもっと良くしたい！」と思います。制作自体は、メンバー同士の支えあいや切磋琢磨によってクオリティーが維持されているのではないのでしょうか。それを評価して頂けることは本当に有り難いことです。編集部は互いに刺激しあえる素敵な制作環境だと思います。



● 上図・阿部愛美さん

● 左図・インタビューで触れた『PARTNER』誌面



菊地 美里
KIKUCHI Misato

筑波大学芸術専門学群
芸術学専攻 2 年

TERATOTERA 今、町に必要なモノ



● シンポジウム*の様子
*[TERATOTERA FORUM the second term
～震災一地域一再考～]

TERATOTERA チーフディレクターである小川希氏をはじめとし、TERATOTERA ディレクター國時誠氏、アートプロジェクト・ディレクター芹沢高志氏、マーケティングプランナー三浦展氏らによる震災以降の文化のあり方を地域とつなげて探るフォーラム。

TERATOTERA (テラトテラ) は、JR中央線の高円寺駅から吉祥寺駅の区間、東京都杉並区と武蔵野地域に展開する、地域密着型アートプロジェクトである。TERATOTERA の活動や現代アートの可能性について、チーフディレクターである小川希 (おがわのぞむ) 氏にお話を伺った。

TERATOTERA (テラトテラ) とは

— TERATOTERA の名前の由来は高円寺と吉祥寺の寺からきているということですが。
小川 「テラ」という言葉には大地とか地球とかいう意味もあるので、大地と大地を結び人と人を結ぶという意味をこめて名付けました。この地域は古くから芸術活動が盛んで魅力ある町ですが、個々の活動のつながりが希薄なのが課題だと思っているので。

— TERATOTERA というプロジェクトはいつから始めたのですか？

小川 2009 年の終わりからいろいろ動き出して、2010 年のはじめに大きいイベントを企画しスタートしました。

— 企画の際に特に困った点は？ 町の人にはすぐに協力を得られたのでしょうか？

小川 TERATOTERA という活動はおろか、名前すら知らないところから始めるわけ

だから、そんなに簡単に行くとは思っていませんでした。ですので、小さいイベントを重ねることから徐々に進めていきました。

— 町の人にはどのような広報をされたのですか？

小川 今回の企画では TERAKKO (テラッコ) と名付けられたボランティアスタッフが自主的にチームを作って進めていきました。僕はアドバイスをする感じでしたが、認知という面では、町の人への広報が足りてなかったと正直思っています。これだけ物や情報が溢れている町だから逆に埋もれてしまうんですね。こういった状況でどのように町の人たちに認知してもらうかというのがこれからの課題。それは都会のアートプロジェクト全般の課題ともいえますが。情報が溢れているところでやる難しさですね。

祭りのメインテーマは “post”

2011 年 10 月 20 日 (木) - 30 日 (日) の 11 日間、TERATOTERA 主催の展覧会「TERATOTERA 祭り」が、JR 吉祥寺駅周辺地域で繰り広げられた。東日本大震災後のアートプロジェクトのあり方を求めて、芸術の多様な表現ジャンルを結びつけ、地域への活力と被災地へのメッセージを送ることを目指したという。